

長期戦略策定会議議事概要

1 日時

令和元年 8 月 22 日 午後 1 時から午後 1 時 15 分まで

2 知事冒頭挨拶

- 長期戦略は、今年 4 月に全庁的な体制で検討をスタートし、課題の洗い出しなどを進めてきた。
- 改めて、今という時代を見つめると、経済、テクノロジー、気候変動、人口構造という 4 つの点で、まさに歴史的な転換点にいる。そのことをまず我々は認識しなければならない。
- その上で、改めて我が国、そして東京の現状の分析をすると、例えば日本経済については国際的な地位の低下が叫ばれている。また、第 4 次産業革命への対応が遅れている。環境面については、予測しがたいような気候変動、気象的な課題があり、それらが持続可能性の危機を感じさせる。また、大きな課題として、人口が減少し、少子高齢化が進展している。こういう中で、我々は危機感を持つ必要がある。
- バブル経済が崩壊して、国際社会のグローバル化・デジタル化が急速に進んでいる中で、日本が取り残されることになってはいけない、ましてや東京がその中で取り残されることがあってはならない。これからの先行きを見通すことが重要である。また、IMDの世界競争力ランキングでは、過去最低の 30 位まで落ちているということについて、真摯に現実を受け止めなければならない。
- さらに、今後は、不確実性が一層増していくと考えられる。よって、これまでの延長線で続ければいいという安易な考えでは、東京の、そして日本の明るい未来は到底望めない、その思いで進めていかなければならない。
- こうした危機感を持ち、取るべき戦略を、主体的に構築をする。そして、「未来への投資」を果敢に推し進めていかなければならない。
- いわゆる「バックキャスト」の視点を持って、明るい未来の姿をまず描

いて、そしてそれを実現するために何をすべきなのか、様々な観点から議論を深める必要がある。

- 今日は、こうした議論を進めるための論点を取りまとめられたので、報告頂いて、皆さんと課題を共有したい。

3 議事（長期戦略の論点整理）について説明

政策企画局長から、「『未来の東京』への論点～今、なすべき未来への投資とは～」について説明。

「『未来の東京』への論点」では、まず、平成の30年間における様々な変化を振り返り、我々の現在の立ち位置を確認する。その上で、今後起こり得る大きな変化・変革を展望し、これらを基に、将来を見据えた場合の東京の「強み」と「弱み」について整理している。そして、おおむね四半世紀先である2040年代を念頭に、我々が目指すべき未来の東京の姿とはどのようなものであるかを、イメージとして提示し、その実現のために、10年後の2030年に向けてなすべきことについて課題を整理している。

<論点01「我々は、何処にいるのか（平成の30年間を検証する）」>

- 日本経済は、IMD世界競争力ランキングが1位から30位となり、時価総額ランキングも上位50社中1社のみとなるなど、世界のトップから大きく後退し、存在感が低下している。
- 東京は、この30年間で、少子高齢化の進展や、ライフスタイル、教育、まちづくり、環境など、様々な変化を遂げている。画面のスライドでは、それぞれの分野の変化の様相を提示するとともに、IT化の著しい進展について、時系列で示している。

<論点02「今、進行しつつある大きな変化・変革をどう捉えるか」>

- 2025年をピークに本格的な人口減少局面となる中、少子高齢化や人口減少が継続すれば、生産力や都市の活力に大きな影響を与えることが想定される。
- アジア諸国の著しい成長や、米中貿易摩擦など、世界の政治・経済・軍事の枠組みやパワーバランスが大きく変化しつつある。

- 世界は今、第4次産業革命のうねりの中にあるが、我が国は大きく後れを取っている。Society 5.0の実現は、我が国が世界のモデルとなる二度とないチャンスであり、超スマート社会の実現に向けて、都が先頭に立って取組を進める必要がある。そして、その実現は、5Gネットワークの早期構築が鍵を握っている。
- 今後、世界の航空需要は倍増し、EC（イーコマース）市場も更に拡大するなど、人の流れや物流が大きく変化していくことが見込まれる。
- 世界的な気候変動の影響により、今後も平均気温の上昇が続くと予測されており、自然災害の頻発など東京の生活に多大な影響を及ぼす恐れがある。
- 平成の30年間でも、国内で多くの地震や火山災害等が発生したが、近い将来、首都直下地震が東京を襲う可能性が高い中、被害をいかに最小化していくかが課題となっている。
- 近年、都内に居住する外国人が大幅に増加しており、このままのペースで増加すれば、2040年には10人に1人となることも見込まれる中、こうした外国人居住者と共に暮らす社会をどうつくっていくかが課題である。

<論点03「将来を見据えた場合の東京の「強み」と「弱み」は何か」>

- 様々な変化・変革を見据えた場合の、東京の「強み」と「弱み」について整理している。例えば、「日本経済の牽引役としての役割を果たしている」一方で、「国際競争を勝ち抜くビジネス環境が整っていない」ことや、「世界の都市にはない高い安全性と利便性が存在する」一方で、「都市インフラの機能強化の取組は道半ば」であることなどを示している。

<論点04「我々が目指すべき未来の東京の姿とは

(2040年代を想定したイメージ)>

- 2040年代を想定して、我々が目指すべき未来の東京の姿について、「人が輝く東京」「安全安心な東京」「世界をリードする東京」「美しい東京」「楽しい東京」「全国と共に歩む東京」というキーワードを基に、20のイメージを具体例とともに提示している。
- 例えば、「人が輝く東京」では、「子供を産み、育てたいと思う人で溢れ、少子化からの脱却に成功している東京」として、「合計特殊出生率は先進国

最高水準となること」、「待機児童は死語になっていること」などを、また、「高齢者が人生100年時代を元気に活躍できる東京」として、「健康長寿の東京モデルが世界の模範」となり「Chōjuが世界共通語に」なることなどを示している。

- 「世界をリードする東京」では、「Society 5.0 が実現した、世界一のデジタル都市・東京」として、「都民生活に広く最先端技術が浸透」とともに、「完全デジタルガバメントの実現」や、「21世紀の石油であるデータが集まる、世界のデータセンター」となることなどを示している。
- こうした未来の東京を実現するために、都庁自らも変貌を遂げるため、目指す都庁のイメージとして、「職員が、民間企業と協働して社会課題の解決に取り組んでいる」などを提示している。

<論点05「東京の未来のために、何をなすべきか（2030年に向けた課題）」>

- 未来の東京の実現のために、10年後の2030年に向けてなすべきことについて、合わせて39の課題を整理している。

今回取りまとめた内容は全て論点として提示したものであり、これをベースに、今後、都民や区市町村、有識者をはじめ、多くの方々からご意見を頂戴し、また、都議会での議論なども重ねながら、年末を目途に長期戦略ビジョン（仮称）を策定する。

そして、来年開催される東京2020大会のレガシーなどを反映し、政策目標や具体的な政策を更に高めた上で、長期戦略として取りまとめていく。

こうした検討については、「重点政策方針2019」で示した戦略的視点「7C TOKYO」の視点に立って進めていく。

4 副知事発言

梶原副知事から以下のような発言があった。

- 今回の「『未来の東京』への論点」は、2040年代の目指す東京の姿をイメージとして提示し、その実現のために、10年後の2030年に向けてなすべきことについて課題を整理したものである。今後、様々なの方々からご意見を頂きながら練り上げていくことになるが、中には、現時点では実現することが容易ではない、高いレベルの内容も含まれている。いわば、目指すべき姿、私はよく、あらまほしき姿と言っているが、これを実現していくためには、

都庁として、政策を総動員して全力で取り組んでいくことが大切である。

- 各局においては、その点を十分に踏まえて、10年後に向けた取組を、柔軟な頭で、いわゆる創造力を持って検討して、今後、骨太の政策を打ち出して頂きたい。
- 当然だが、課題というのは1つの局だけで解決できるものではない。局の垣根を越えて議論し、協力して政策を練り上げて頂くようお願いする。
- さらに、こうした政策を実現するためには、都庁自らの一層の改革も必要となる。今後皆さんと、改革をしっかりと進めていきたいと考えている。協力をよろしくお願いしたい。

5 知事発言

- 大変ハードルが高いものをあえて設定しているが、2040年になったら当たり前、それどころかもっと先に進んでいるかもしれない。それほど世界の発展は激しい。
- 『未来の東京』への論点』について、報告を頂いたが、この論点をベースにして、今後、幅広い方々から意見を頂きながら、長期戦略を練り上げていきたい。
- 都議会に対しては、第三回の定例会に報告をし、議員の方々から意見を頂きたい。区市町村や各分野の有識者の方々からも、幅広くご提言を頂くことを考えている。
- 庁内各局の皆さんには、強い危機感を持って、是非共有しながら進めていく、そしてそれを乗り越えていくための「戦略」を練り上げていく、そのような意識を強く持って頂きたい。
- 梶原副知事からも発言があったように、それぞれの局の中で完成するものではなく、都全体として練り上げていかなければならない、その点も御留意頂きたい。
- また、世界に目を向けて鳥の目でまず全体を俯瞰する、そしてグローバルな視点で、課題解決に向けた具体的な政策を議論して頂きたい。

- ラグビーワールドカップは開催まで 30 日を切り、もう目の前である。来年夏の東京 2020 大会も開催まで 1 年を切った。これらのメガイベントを成功に導くと同時に、その先も「成長」と「成熟」が両立する明るい東京を実現していく、そして次世代に引き継いでいく。このことが、今を生きる我々の使命であることを皆さんと確認をしたい。

- 首都東京の長期的な羅針盤として、令和の時代にふさわしい骨太の長期戦略を作り上げるために、皆様方の叡智を結集して頂くよう、お願いしたい。

以上